

地域ぐるみの「防災訓練」

- 9月下旬の土曜授業の日に、全校生徒参加の防災訓練を実施しました。
- 宇都宮市西消防署、宇都宮市消防団第2・第4分団、西地区自治会、日本赤十字社栃木支部、西原地区自治会、宮の原地区自治会、PTAなど多くの地域・関係機関の皆様にご協力いただきました。
- 校庭への避難訓練から始まり、その後、西消防署や宇都宮市消防団の方々に御指導をいただきながら、学年ごとに様々な体験や訓練を行います。
- 煙体験では、人体に無害な煙が充満したテントを通り抜け、火災時における煙の怖さと避難方法を学びます。起震車による地震体験では、震度6の揺れを体感し、地震が起きたときに、どのように対処するかを学びます。消火器を使った消火訓練では、火災が起こったときの適切な行動や消火器の正しい使い方を学びます。体育館では、応急手当訓練を行い、AED（自動体外式除細動器）の使い方を学び、心臓マッサージの練習をします。
- 体験や訓練をした後、西消防署の方々による救助訓練の様子を見学しました。20名ほどの生徒が救助に協力をし、地域を守る立場になる自覚を高めることができました。
- 生徒たちの訓練中に、自治会やPTAボランティアの方々は、災害発生時を想定して、炊き出しの準備をしてくださいました。



AED・心臓マッサージの訓練



3階からの救助に協力



地域の人たちによる炊き出し

【学校の声】

実践的な防災訓練を実施し、防災意識を高めるとともに、地域の人たちに守られて生活していることに気づき、自分も地域の一員として地域を助けていく、「共助」の意識を高められるような訓練を目指しています。

地域協議会の委員の皆様には、いつも学校行事に全面的に御協力いただき、たいへん感謝しています。学校を含めて地域であり、地域として支援できることは何かということ、いつも考えてくださっています。

【地域協議会の声】

東日本大震災後、中学生に何かできることはないか、地域を巻き込んで何か活動できないかという思いから、地域ぐるみの防災訓練が始まりました。

長く続いている行事ですが、救助袋訓練を取り入れたり、起震車を要請したり、多くの生徒が体験できるように練習用のAEDの数を増やしたりするなど、工夫を重ねながら実施しています。

【いいね！】

見て、聞いて学ぶだけではなく、多くの地域の方の協力と生徒とのふれあいにより、災害に関する様々な体験をすることができた。その体験により、災害について、地域の人について、地域と自分について学び、意識を高めていくことができた。地域ぐるみで取り組み、地域で育て、地域から学ぶ活動であった。

